

Acroporidae ミドリイシ科

*Acropora* ミドリイシ属

***Acropora* sp. HA**

**(Figs. 1-5)**

サキナガクシハダミドリイシ 新称

(図 1-5)





図 1. Y163. A タイプ (sp. HA). 種子島浦田湾. 2008-02-14.

図 2-5. TOK49. A タイプ (sp. HA). トカラ列島中之島, 水深 6 m. 2010-07-05.

図の撮影は全て鈴木豪.

**形態：**群体はテーブル状。群体の中心から水平枝が長く放射状に延びて、時々融合する。水平枝から垂直に短い枝が密に分岐するが、他の隠蔽種に比べ垂直枝は長く、中軸サンゴ個体も伸びる傾向がみられる。

**識別点：**「形態」の項で述べたように、垂直枝が長く、中軸サンゴ個体も長いという点以外にも、放射サンゴ個体の開きが少なく、枝を覆っているように見える点が特徴的である。*A. cytherea* ハナバチミドリイシに似ているが、本種では放射サンゴ個体の先端の伸長は見られない。

**分布と生態：**クシハダミドリイシ種複合体の網羅的な分子系統解析では、地理的には、種子島とトカラ列島中之島でのみ検出できた。ほかの地域での生息状況は更なる検討が必要である。

**新称和名：**クシハダミドリイシ種複合体の中で、垂直枝が長く、中軸サンゴ個体も伸びる特徴に由来する。和名基準標本は、Y163 (図 1) である。

**和名提唱日：**2023-11-12.

**備考：**Ladner & Palumbi (2012) は、太平洋全体の *A. hyacinthus complex* を対象とした STRUCTURE 解析 (12 か所の分子マーカーを使用) により、A~F の 6 種の隠蔽種の存在を報告している。Suzuki *et al.* (2016) では、日本周辺の集団を対象に、このうちミトコンドリア非翻訳領域、核の遺伝子および非翻訳領域の合計 4 か所の分子マーカーを用いて解析し、本種は Ladner & Palumbi (2012) の *A. hyacinthus* A と同じグループになることが推定された。

引用文献：

- Ladner J, Palumbi S (2012) Extensive sympatry, cryptic diversity and introgression throughout the geographic distribution of two coral species complexes. *Mol Ecol* 21: 2224-38.
- Suzuki G, Keshavmurthy S, Hayashibara T, Wallace CC, Shirayama Y, Chen CA, Fukami H (2016) Genetic evidence of peripheral isolation and low diversity in marginal populations of the *Acropora hyacinthus* complex. *Coral Reefs* 35: 1419-1432.

執筆者：鈴木豪

**Citation：**

- [JP] 鈴木豪 (2023) *Acropora* sp. HA サキナガクシハダミドリイシ. In: 日本造礁サンゴ分類研究会, 日本産有藻性サンゴ類 WEB 図鑑.  
Accessed at: [https://coralmonogr.jpn.org/Acropora\\_sp\\_HA.html](https://coralmonogr.jpn.org/Acropora_sp_HA.html) on 2023-11-12.
- [EN] Suzuki G (2023) *Acropora* sp. HA. In: Japanese Society for Coral Taxonomy. Online Monograph of Zooxanthellate Corals of Japan.  
Accessed at: [https://coralmonogr.jpn.org/Acropora\\_sp\\_HA.html](https://coralmonogr.jpn.org/Acropora_sp_HA.html) on 2023-11-12.

更新履歴：

2023-11-12 公開